

電気通信大学 平成21年度シラバス

| | | | |
|---------|--|----------|--------|
| 授業科目名 | 大学院インターンシップ1(海外) | | |
| 英文授業科目名 | | | |
| 開講年度 | 2009年度 | 開講年次 | |
| 開講学期 | | 開講コース・課程 | 博士前期課程 |
| 授業の方法 | 演習 | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 情報システム学研究科-情報システム学研究科-特別科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 情報メディアシステム学専攻 社会知能情報学専攻 情報ネットワークシステム学専攻 情報システム基盤学専攻 | | |
| 担当教官名 | | | |
| 居室 | | | |

| | |
|----------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| なし | なし |

| |
|--|
| <p>【講義の狙い, 目標】</p> <p>大学院インターンシップ1(海外)は、科学技術教育の一環として、大学が産業界の協力を得て行う実習・研修の就業体験である。実習・研修は海外において行う。本講義の趣旨は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究・技術開発及び生産の現場に関心を深め、創造性や自主性の育成を図る。 2. 研究・技術開発と経済性、作業と安全性とは一体不可分のものであることを体得する。 3. 研究・技術開発の実際問題に当面させ、その解決を図る技能を養う。 4. 将来、研究者や技術者として活躍するときの心構えと抱負を養う。 5. 企業等の現場において就業体験を積むことで、科学技術教育の意義と重要性を理解する。 6. 自己の職業適性や将来設計について考える機会を与え、自主的な職業選択や高い職業意識を身につける。 7. 海外企業(含む日系企業)で実務研修を通じて、日本の企業や大学の研究・開発等の望み方などの違いを学ぶ。 8. 海外企業の現地社員との交流を通じて日本人的発想、視点の違いなどを学ぶ。 9. 国際的に通用する人材とはなにかの姿を自ら体得する。 10. インターンシップ研修での体験を、自らのキャリア設計に資することにその最大の意義を見出す。 |
|--|

【内容】

大学院インターンシップ1（海外）は、1.事前教育・学習、2.就業研修および3.事後教育・学習で構成される。事前、事後教育は随時行うこととする。

1.事前教育・学習

インターンシップの意義、自らの希望する業界、企業について研究、学習をすること。これをもとに担当教員、指導教員および共同研究センターが連携して研修先企業を選定する。（公募についてはこの限りではない）また、事前の研修および研修希望先との事務手続き等もこの一環とする。ビジネスマナー等の教育は共同研究センターで随時行う。

2.就業研修

期間は原則夏季休暇期間中とし、研修中は研修先の諸規定、監督者、指導者等に従う。研修終了時、企業・団体の研修指導者が記入、発行する「修了書」を以って就業研修が認定される。

3.事後教育・学習

就業研修終了後、実習内容、感想、反省などの「報告書」を作成し、所定期限内に提出するとともに、担当教員と面談し報告または発表を行なう。

【教科書，参考書】

各指導教員の指示に従うこと

【予備知識】

各指導教員の指示に従うこと

【演習】

各指導教員の指示に従うこと

【成績評価方法及び評価基準】

単位認定の基準は事前・事後の学習時間を含む研修時間総計90時間以上とする。成績は修了書、報告書および面談のうえ総合的に判断する。

【その他】

公募については、予め指導教員および担当教員に相談し、決定後は速やかに報告すること。就業研修期間は原則夏季休暇期間中とする。